

パサデナよりメッセージ

From Billie Fife Cook
To the people of Hadano

Greetings to all my friends in Hadano, with a warm hello to Mayor Yoshiyuki Furuya, who led the first delegation from Hadano to Pasadena. I regret to have missed coming to Hadano with the Pasadena delegations in recent times. So much I miss all of you and your beautiful city. The wonderful part is you are so deep in my heart and memories due to the exchange we have as Sister Cities, which created a special bond.

It was U.S. President Eisenhower (1953-1961) who began the Sister City Program believing by this means two cities can strengthen international interest and relations. In 1964 Pasadena adopted the City of Hadano. For me and scores of others visits in Hadano gave insight and understanding to Japanese culture and how gracious and kind your people are. I respect and admire so many things in Hadano, the beauty of the river, Sakura, Yosegi, your efforts to protect the environment, beautiful rice fields, all the wonderful work you do with bamboo- so many of Japanese customs.

As I always said as I departed Hadano, I would want to stand on highest mountains and shout to the world my deep heart feelings to all of you get realizing they could never understand that joy unless they could come to know you.

Neither time or distance will ever change that, I am a honorary citizen of Hadano and part of me will always remain with you.

You have blessed my life.

秦野からの第1回目の訪問団を率いてきた古谷義幸市長と秦野の皆さんにごあいさつ申し上げます。一昨年春は、パサデナ訪問団と一緒に秦野に行けなくてとても残念でした。秦野の皆さんや美しい街が見られなくてとても寂しい思いがしました。姉妹都市として交流し、特別な絆を築いてきたので、私の心にはすばらしい思い出が深く残っています。

アメリカのアイゼンハワー大統領(1953~1961)は、国際関係を強化することを考え、姉妹都市提携運動を始めました。1964年に秦野とパサデナは姉妹提携を結びました。私や秦野を訪問した人たちは日本文化や秦野の人たちのご親切がよくわかり、美しい川、桜、寄木細工、環境保護への努力、美しい田んぼ、竹細工などたくさんの日本の習慣にほれほれました。

私は秦野を離れるときにはいつも、高い山に登って、世界の人たちに向かい、「秦野は美しいです」と叫びたい、と言っています。

時間や距離がどんなに離れていても、秦野の名誉市民として、いつも秦野のことを思っています。

ビリー・ファイフ・クック

秦パ交流記

シリーズ No.2

市長・校長は大型車の名ドライバー



参考資料「抄」 神奈川新聞 昭和六十一年記事

当時のパサデナ市長が大型バスを運転して市内を案内、市内各所では横断幕や電光ニコスで訪問団を歓迎、団員を乗せた車は赤信号でもノーストップで目的の地へ、記念植樹は柏木訪問団長に因んで「柏」の木、このように心づくしの歓迎を受けた第二回公式訪問団、あれから二十一年、今回も団員の会場移動はゲイル校長運転の大型車。アメリカの大きさを感ずる心からのおもてなしは、今でもずっと受け継がれています。

編集後記

名前も決まり、多くの方のご協力を得て第2号の発行ができ感謝です。お伝えしたいことが多くて紙面の調整に苦労しました。

佐野幸恵様、目黒キサ子様ご入会ありがとうございました。

これからも輪を広げていきたいと思っています。会員募集のお声掛けよろしくお願ひいたします。 玉川 澄江

「愛」のTシャツ 事務局で注文受付中

好評の紺色Tシャツ背中に「愛」胸に「Howdy」のプリント、まだ注文受けています。

身長100cm~3xLまで。¥2,100パサデナの人たちも着ています。

イベントの時は皆で着ませんか!



ジャニス会長、レオンさんのモデル...早くも大ブレイクの兆しか!?



第2号

発行 秦野パサデナ友好協会
事務局 〒257-8501
秦野市桜町一丁目3番2号
(秦野市 市民自治振興課内)
TEL 0463(82)5118 FAX 0463(82)6793
E-mail siminjiti@city.hadano.kanagawa.jp
発行日 平成20年3月7日

白球に夢を託し 2月16日(土) 協会主催で壮行会開く 少年野球選抜チーム、パサデナで親善試合

今年度青少年交流第2弾として、秦野市少年野球連盟(久保守邦夫会長)に加盟する市内少年野球チームの代表者による選抜チームが結成され、3月24日(月)から30日(日)までパサデナを訪問し、パサデナ市の少年野球チームと試合を行います。

試合は、3月26日・27日のナイトゲームで行われ、滞在中には、渋沢中学校の友好校であるトンプソン中学校を訪問し、子供同士が触れ合う場も企画しています。

今回、団長の今井茂文協会理事長は、「連盟創立30年という節目の年にすばらしい記念行事になり、子供たちにとってもこの交流試合が小学校最後の記念となるだけでなく、とても良い経験になると期待しております」と抱負を語ってくれました。また、監督の加藤文彦氏も「ベースボール発祥の地、アメリカで試合ができるということは、私自身鳥肌がたつ思いですし、秦野の子供たちがどこまで通用するかが楽しみです」と、そして、チームのキャプテンの諸星秀樹さん(渋沢小)は、「アメリカ大リーグは僕にとって憧れであり、大リーグ、アストロズの本拠地を見学できたり、試合ができるということはとても嬉しい」とそれぞれ語ってくれました。



君たちを待っているグラウンド

秦野市少年野球連盟選抜チームメンバー

牧野幸輔(南が丘ボーイズ)加藤 優(秦野ドリームズ)高橋広純(秦野ビッキーズ)江川和輝(スプラウト)山口賢士朗(秦野ホワイトスネークス)大塚樹希(グリーンスターズ)前原大輝(北モンキーズ)関口直紀(秦野コメッツ)諸星秀樹(渋沢スポーツ少年団)石川琢磨(リトルジャイアンツ)飯田拓和(秦野サンダース)南塚竜吉(秦野シーガルズ)古谷勇樹(秦野ベッカーズ)軍司隆史(秦野ピクターズ)川崎浩太郎(南ジャガーズ)林佑次郎(キングタイガーズ)鈴木篤人(鶴巻ファイターズ)今井茂文(団長・秦野市少年野球連盟理事長)田中義明(同副理事長)佐藤幸雄(同副理事長)飯塚雄三(同事務局長)加藤文彦(監督・秦野ドリームズ)岩田清生(コーチ・スプラウト)吉田勝己(コーチ・北モンキーズ)若林秀夫(コーチ・渋沢スポーツ少年団) (順不同)

Howdy(ハウディ)の由来

「パサデナでは“Howdy”と呼びかけると、みんな“Howdy”と明るく答えてくれるんだ」と友好協会のメンバーの一人が言いました。これは“How do you do?”(やあ!)の短縮形で、両市の合言葉になればと、思いを込めて名づけました。 河口博子

パサデナ市長に ジョニー・イズベル氏が当選

1月18日にジョン・マンラブ市長の途中辞職による市長選挙が行われ、元市長であるジョニー・イズベル氏が当選しました。イズベル市長は、秦野を訪問されたこともあり、当友好協会会員とも友好が深く、今後の両市の友好の更なる発展が期待されます。



パサデナの温かい歓迎に感激

10月23日(日)~
10月29日(月)

団員23名(中学生4名、高校生2名を含む)が訪問 青少年交流が本格的にスタート



着物ショー、縁日気分も届いたかな?

2007年10月23日(日)から29日(月)まで、中村良之副市長を団長とした、青少年6名を含む23名の親善訪問団がパサデナ市を訪問しました。
今回は一昨年4月のパサデナ市長を団長とする訪問団の秦野市訪問への答礼と、その時に両市長間で調印された「青少年相互交流を促進していく旨の合意書」を受けた「青少年交流促進」への一歩となった訪問でした。



披露しました、クールジャパン

滞在中、パサデナの人たちは温かく団員たちをもてなしてくれました。最終日のさよならパーティーでは、「帰りたくない」と泣き出す青少年も出たほど、団員一人ひとりがパサデナの人々との友情を胸に刻みつけた訪問でした。



ピース決まってる~!でもだれのVサイン?

すべてがよい経験に...参加者の声

山谷秀樹さん(渋沢中学校長)...秦野からの訪問団の代表数名とパサデナ独立学区の教育委員会の理事・教育長と財政の問題から今日的教育問題について意見交換しました。お互いに共通の課題もあり、相互理解が深まったと思います。

草山晃さん...ことばは通じなくても広大なアメリカ・テキサスで体も心もすべてビッグな人たちと心が通じ合え、一般のツアーでは味わえない良い経験ができました。ホームステイ先のミズホさんとすばらしい友だちになれたことは、何より私の家で忘れることはないでしょう。

恩地飛斗さん(中2)...小学校を訪問した時、皆が心を込めて演奏してくれて気持ちがすごく伝わってきました。すごいなあと思いました。ぼくもこんな風に自分の気持ちを伝えられたらいいなあと思いました。

益子澄香さん(中3)...日本を発ってアメリカに着いた時、私は期待で胸がいっぱいでした。周りには英語を話している人しかいなくて、初めは不安でした。一番楽しみにしていたホームステイでは、自分の英語が相手に伝わりすごくうれしかったです。

「さくら」演奏者3名の体験談

スパークス小学校を訪問した折に、3人の児童が「糸竹舎」から贈られたお琴で「さくら」を演奏してくれました。演奏した子どもたちの感想をゲイル校長(写真左)にまとめていただきました。



校長とグエン先生と共に

Olivia-would like to play the KOTOs again. At first they were hard to play but then Mr. Nguyen (music teacher) showed them how to hold the picks correctly so it was easier. Very nervous at first about playing in front of the Japanese visitors but then after met them it was OK because they were so nice.

オリビア...お琴を弾くのは始め大変だったけど、グエン先生がていねいに教えてくれたから今は大丈夫。日本からのお客さんの前で演奏するのはドキドキしたけど、皆いい人たちだったから楽しかった。

Karla-would like to go to Japan some day to visit and find out about how the Japanese people live. This was her first instrument to learn to play and she really enjoyed it and thought it was fun to play. She was glad they came to visit our school and liked it when we sang the TEXAS song again and they danced with us.

カーラ...いつか日本に行って、日本人がどんな風に暮らしているのを見てみたい。秦野の人たちがテキサスの歌と一緒に歌って踊ってくれたのがうれしかった。

Jessica-liked playing the KOTO and learning how to play it. At first it was hard to play but then we learned how to place the stands, sit properly, and use the finger picks so it was fun. The people that came to visit were very nice and enjoyed watching us play the Japanese KOTO instrument.

ジェシカ...お琴大好き!来てくれた人たちは皆いい人たちで、私たちの演奏を楽しく見ていてくれました。

飯塚義一さん、ジミー・ハリスさんと劇的な再会

~友情に勝る特效薬なし~

飯塚さんは、パサデナ友好協会の30年来の旧友ジミー・ハリスさんを訪問しようと心に決めていました。しかし今、ジミーさんは病気で寝たきりの状態。介護をしている奥さんのマセラさんから「来ていただいても、今までのようには話もできませんから...」と一度は断られました。しかし、熱意が通じ、訪問が実現しました。

お宅に着くと、ジミーさんはちゃんと背広を着てイスに座り待っていてくれました。耳元で「ハダノ ギイチ」と言うと、うなずきほほえみしました。昔を思い出しては、ハリス一家と共に笑い、泣き、泣いて笑いました。別れの時がやって来ました。ジミーさんは見送りに外へ出ると言いつつ聞き入れません。とうとうイスから立ち上がり、車の所まで見送ることができました。ベッドで寝たきりだったのが、外へ歩けるまでに。家族も「ミラクル(奇跡)だ」と涙を流しました。

To have such a special friendship that we have with our dear friend Giichi, word cannot express. It's a feeling that warms your heart. Giichi's visit in our home at this particular time of our lives was such a wonderful blessing and an honor to us. The times we have shared throughout the years is something that will never be forgotten. The relationship we have with all our friends in Hadano is a treasure we hold so dear to our hearts.



再会を喜ぶ飯塚さんとハリス夫人

With love,
Marcella and
Jimmy Harris

親愛なるギイチとのすばらしい友情は、とても言葉では言い表わせません。胸がジーンとします。今回のギイチの訪問は、私たちにとってこの上ない喜びです。今まで共に分かち合ってきた年月を、決して忘れはしません。秦野の皆様との友情は私たちの心の宝物なのです。

未来に向かって80余名が集う

~2007 パサデナ姉妹都市交流促進フォーラム~

昨年12月15日(土)に本町公民館大会議室で、「未来に向かって」をテーマに2007年度の「パサデナ姉妹都市交流促進フォーラム」を開催しました。今回は、主として昨年10月の親善訪問団の6名の中・高生から「温かい歓迎にとっても感激した」との報告がありました。

フリートークの時間では、テキサスフードを食べながら、訪問時のビデオ上映を楽しみました。また、「少年野球交流」に参加する子どもたちも含め、会場には80余名の参加者があり、訪問時の写真展示などを見ながら、語り合い、和やかな雰囲気の中で閉会となりました。

パサデナを見たい...参加者の感想

村上頼子さん...優がこの度パサデナを訪問させていただきました。本人も家でいろいろな思い出話をしてくれました。でも、今日の訪問団の報告やビデオを見てパサデナの人たちの様子がよくわかりました。

飯塚裕太さん(中3)...訪問した様子がよくわかりました。いろいろな話を聞いて姉妹都市との交流がとても大切だとわかりました。ぼくも是非パサデナに行ってみたくです。今日は参加して本当によかったです。